かけはし

発行：日本共産党橋本市委員会
住所：橋本市御幸辻１６７－１
電話：３２－９２４３

第２１回　和歌山県高齢者大会　海南・海草大会に参加して

海南の「紀美野町文化センター」にて、県の高齢者大会が開かれ、伊都・橋本の年金者組合から、１４名が参加しました。５４０名の参加予定が、６００名を超え、補助席を急きょ、通路に用意するほどの盛況でした。

〖老人は、多年にわたり社会の発展に寄与したものとして、かつ豊富な経験を持つ者として敬愛されるとともに、生きがいを持てる健全で安らかな生活を保障されるものとする〗という、老人福祉法第２条が、１９８０年代に削除されました。歴代政府は、営利本位、大企業優先の政治をすすめ、老人医療費を有料化し、次々と、負担増・給付減を進めました。「高齢者福祉に使う」という口実で創設された「消費税」は、実際には、法人税の減税に消えました。

和歌山県の高齢者は２８万１千人で、そのうちの約６０％が、一人暮らしか、老人だけの二人世帯になっています。

日本の生活困窮者は、１千万人以上、（和歌山県内には無年金者が約１万人）日本の生活保護受給者は、約２２０万人で、その約半数が高齢者となっています。

世界の進んだ国では、最低保障年金制度が　当たり前になっています。国連から「最低保障年金制度を創設するように」再度、勧告を受けているにもかかわらず、政府は、高齢者の暮らしを直撃する「消費税」の増税を強行しようとしているのが、現状ということでした。

「一人の老人の死は、一つの図書館が焼失するに値する」

上記の言葉が、大会のアピールにありました。　経験と知恵にあふれた高齢者は、かけがえのない存在だということを、高齢者自身が、自らの価値に目覚めよう、戦争を経験した高齢者は、平和を守る経験、知恵があるという訴えを、深く受け止めました。

実践報告では、高齢者の一人暮らしは、仕方ないけれど、「孤立」「孤独」という「ひとりぼっち」は無くしたいと、町で共に生きる経験、共に生きる知恵を出し合ってきた実践を学びました。

私が一番、感心したのは、「地域サロン」発祥となった「憩いの部屋西野」の取り組みでした。

「気兼ねなく、遊ぶところが欲しいな」という、高齢者の方のつぶやきから、平成１７年に立ち上げが始まり、歌を楽しむだけでなく、低栄養予防など健康チェックや、誰もができる「小物つくり」へと発展。さらに、脳こうそくの後遺症等で、一人で作ることはできないが、みんなと協力して作品（わら草履、布草履、茶瓶敷、ティッシュケース）をつくることができる、人に作品をあげることができる、作品を売ってお金になる取組もなされてきました。

今後は、認知症介護・老老介護・老障介護の本人をサロンに引っ張り出し、共に楽しめるサロンへと工夫をしていくそうです。まさに「知恵」と「経験」「工夫」にあふれていました。

第２部の文化行事は、高校生（りら創造芸術高等専修学校）の司会で始まりました。

久しぶりに、底抜けに明るく、元気な司会と、踊りや太鼓など、十分に楽しませてもらいました。来年の開催予定地は「西牟婁郡」です。

（髙本　薫）

無料法律相談
日時　12 月 6 日(金)　午後 3 時～8 時
場所　橋本市民会館2F　予約が必要です。
富岡清彦 33-0796・阪本久代 36-1493
古倉伸二 32-6406